

2019 年度 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚士学科		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	聴覚系の構造・機能・病態		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年		学期及び曜時限	前期 土・1・2限	教室名	702
担 当 教 員	小川 真	実務経験と その関連資格	医師として耳鼻科領域に関わっている。			
《授業科目における学習内容》						
聴覚系の基礎である構造・機能・病態を学ぶ。この基本を踏まえた上で聴覚の疾患を理解できるようにする。						
《成績評価の方法と基準》						
定期試験80%、小テスト20%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
医学書院『標準言語聴覚障害学 聴覚障害学 藤田郁代監修』、副教材:医歯薬出版株式会社『言語聴覚士の聴覚障害学 喜多村健編集』						
《授業外における学習方法》						
Active learningを行うため、教科書における次の授業のテーマの領域を読んでおく。						
《履修に当たっての留意点》						
聞こえの仕組みを理解することは、聴覚に何らかの障害を抱えた患者様を理解する上で必要なことです。言語聴覚士として必要な知識をしっかりと学んでください。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	聴覚の存在意義を理解できる。外耳の解剖を説明できる。	『聴覚障害学』、 『言語聴覚士のための聴覚障害学』	(復習)学んだ内容をまとめておく	
		各コマにおける授業予定	はじめに 音と音を介したコミュニケーション、聴覚器の発生、聴覚器の構造			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	中耳・内耳の解剖を説明できる。	『聴覚障害学』、 『言語聴覚士のための聴覚障害学』	(復習)学んだ内容をまとめておく	
		各コマにおける授業予定	聴覚器の構造			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	中耳・内耳の伝音機構とその異常について理解する、	『聴覚障害学』、 『言語聴覚士のための聴覚障害学』	(復習)学んだ内容をまとめておく	
		各コマにおける授業予定	中耳・内耳伝音機構			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	内耳の感音機構とその異常について理解する。	『聴覚障害学』、 『言語聴覚士のための聴覚障害学』	(予習)本授業のテーマの領域を読み、重要事項をまとめておく。	
		各コマにおける授業予定	内耳感音機構			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	中枢における聴覚伝導路の経路と言語処理について学ぶ。	『聴覚障害学』、 『言語聴覚士のための聴覚障害学』	(予習)本授業のテーマの領域を読み、重要事項をまとめておく。	
		各コマにおける授業予定	聴覚伝導路と言葉の認識について			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	伝音難聴の病態について理解する。	『聴覚障害学』、 『言語聴覚士のための聴覚障害学』	(予習)本授業のテーマの領域を読み、重要事項をまとめておく。
		各コマにおける授業予定	伝音難聴		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	伝音難聴を生じる疾患の個々の特徴について理解する。	『聴覚障害学』、 『言語聴覚士のための聴覚障害学』	(予習)本授業のテーマの領域を読み、重要事項をまとめておく。
		各コマにおける授業予定	伝音難聴を生じる疾患		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	内耳性の感音難聴の病態について理解する。	『聴覚障害学』、 『言語聴覚士のための聴覚障害学』	(予習)本授業のテーマの領域を読み、重要事項をまとめておく。
		各コマにおける授業予定	内耳性難聴		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	内耳性の感音難聴を生じる疾患の個々の特徴について理解する。	『聴覚障害学』、 『言語聴覚士のための聴覚障害学』	(予習)本授業のテーマの領域を読み、重要事項をまとめておく。
		各コマにおける授業予定	内耳性音難聴を生じる疾患(1)		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	内耳性の感音難聴を生じる疾患の個々の特徴について理解する。	『聴覚障害学』、 『言語聴覚士のための聴覚障害学』	(予習)本授業のテーマの領域を読み、重要事項をまとめておく。
		各コマにおける授業予定	内耳性音難聴を生じる疾患(2)		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	後迷路性の感音難聴の病態と疾患の個々の特徴について理解する。	『聴覚障害学』、 『言語聴覚士のための聴覚障害学』	(予習)本授業のテーマの領域を読み、重要事項をまとめておく。
		各コマにおける授業予定	後迷路性難聴とその疾患		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	中枢性の感音難聴の病態と疾患の個々の特徴について理解する。	『聴覚障害学』、 『言語聴覚士のための聴覚障害学』	(予習)本授業のテーマの領域を読み、重要事項をまとめておく。
		各コマにおける授業予定	中枢性難聴とその疾患(1)		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	中枢性の感音難聴を生じる疾患の個々の特徴について理解する。	『聴覚障害学』、 『言語聴覚士のための聴覚障害学』	(予習)本授業のテーマの領域を読み、重要事項をまとめておく。
		各コマにおける授業予定	中枢性難聴とその疾患(2)		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	詐聴と心因性難聴の特徴について理解する。	『聴覚障害学』、 『言語聴覚士のための聴覚障害学』	(予習)本授業のテーマの領域を読み、重要事項をまとめておく。
		各コマにおける授業予定	機能性難聴		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	聴覚系の構造・機能・病態を理解する。聴覚系の構造・機能・病態を説明することができる。	『聴覚障害学』、 『言語聴覚士のための聴覚障害学』	試験に向けて全般をまとめる
		各コマにおける授業予定	まとめ		